

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和6年6月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は概ね静穏に経過していますが、長期的には噴気活動や地殻変動に活発化の傾向がわずかに認められており、今後の推移には注意が必要です。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～6）

山頂に設置した監視カメラにより、昭和4年火口のごく弱い噴気を観測しました。昭和4年火口でごく弱い噴気を観測した日数は、2021年頃から増加する傾向が認められています。

5月30日に山頂火口原で実施した現地調査では、昭和4年火口の噴気の状態や地表面温度分布に前回の観測（2023年5月）と比べて特段の変化は認められませんでした。また、その他の火口についても状況に特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図7）

今期間、火山性地震は少なく低調です。火山性微動は観測されていません。

2023年12月から2024年3月頃にかけて、山頂火口原浅部（海拔下1km付近）を震源とする振幅の小さな低周波地震や火山性微動が発生しましたが、その後の地震活動は低調です。

・地殻変動の状況（図8～9）

GNSS連続観測では、2022年頃から山頂火口原浅部の膨張を示すと考えられるわずかな変化が一部の基線で認められていましたが、2024年1月頃から概ね停滞しています。山頂火口原付近を挟む基線では、長期にわたり断続的に伸びが認められます。

5月28日から30日にかけて行った山頂付近のGNSS繰り返し観測によると、昭和4年火口付近を囲む基線で、前回（2023年5月29日から6月1日）から、引き続きわずかな伸長が認められました。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

今回の火山活動解説資料（令和6年7月分）は令和6年8月8日に発表する予定です。

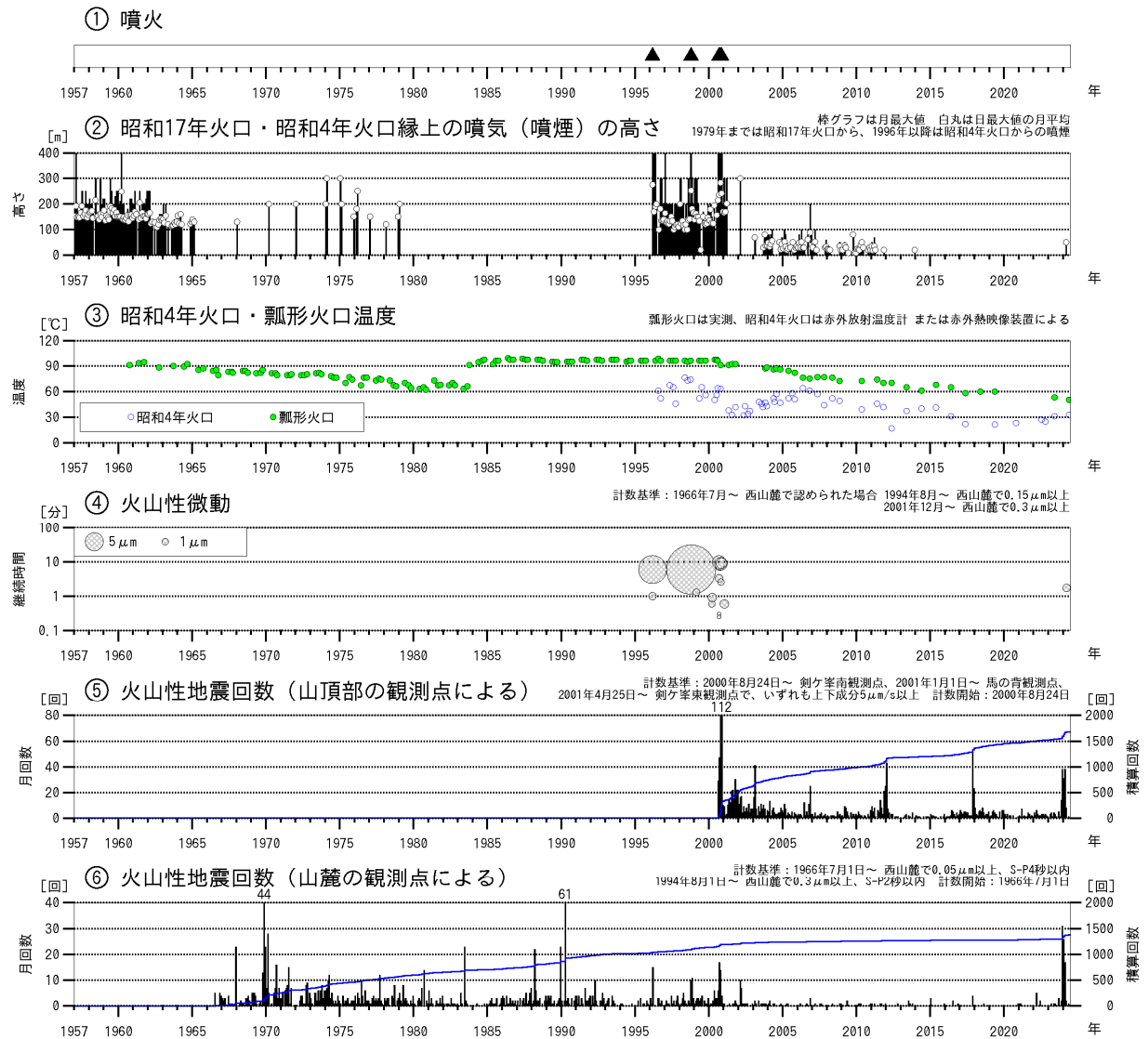


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2024年6月）
各火口の位置は図3を参照してください。

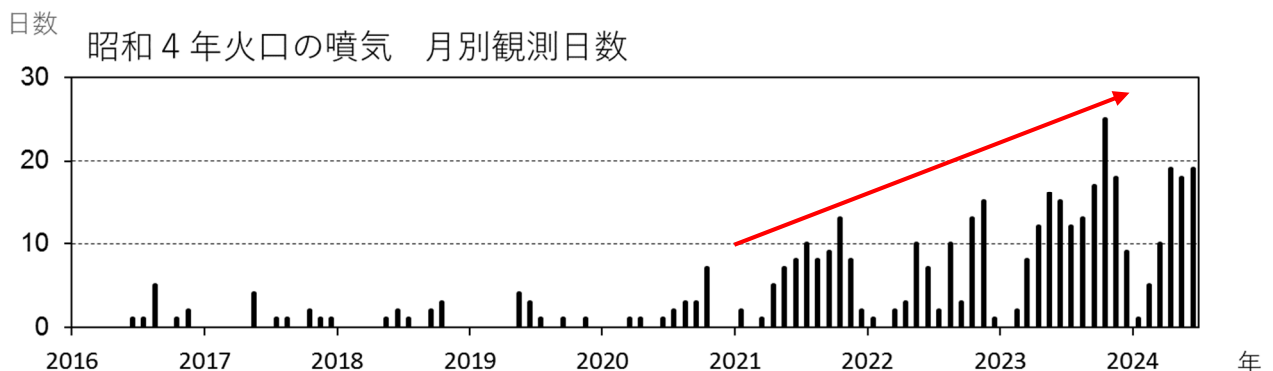
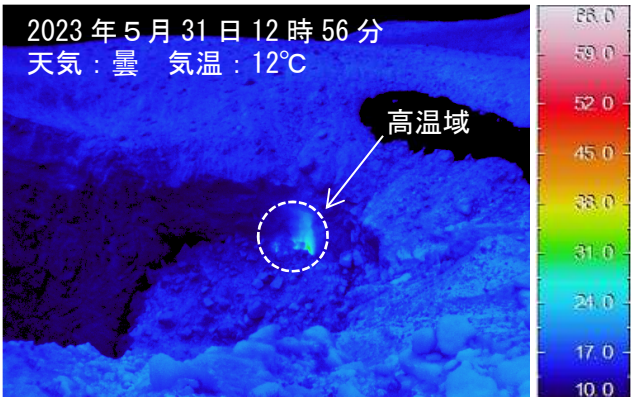


図2 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口のごく弱い噴気を観測した日数（2016年1月～2024年6月）
山頂部に設置した剣ヶ峯監視カメラ及び駒ヶ岳山頂（道）監視カメラ（位置は図3、図10参照）による観測結果です。
冬季は雪氷付着のため欠測日が多くなる傾向があります。



図4 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況
(剣ヶ峯監視カメラによる)



(図3の①から赤矢印の方向に撮影)

・前回の観測（2023年5月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

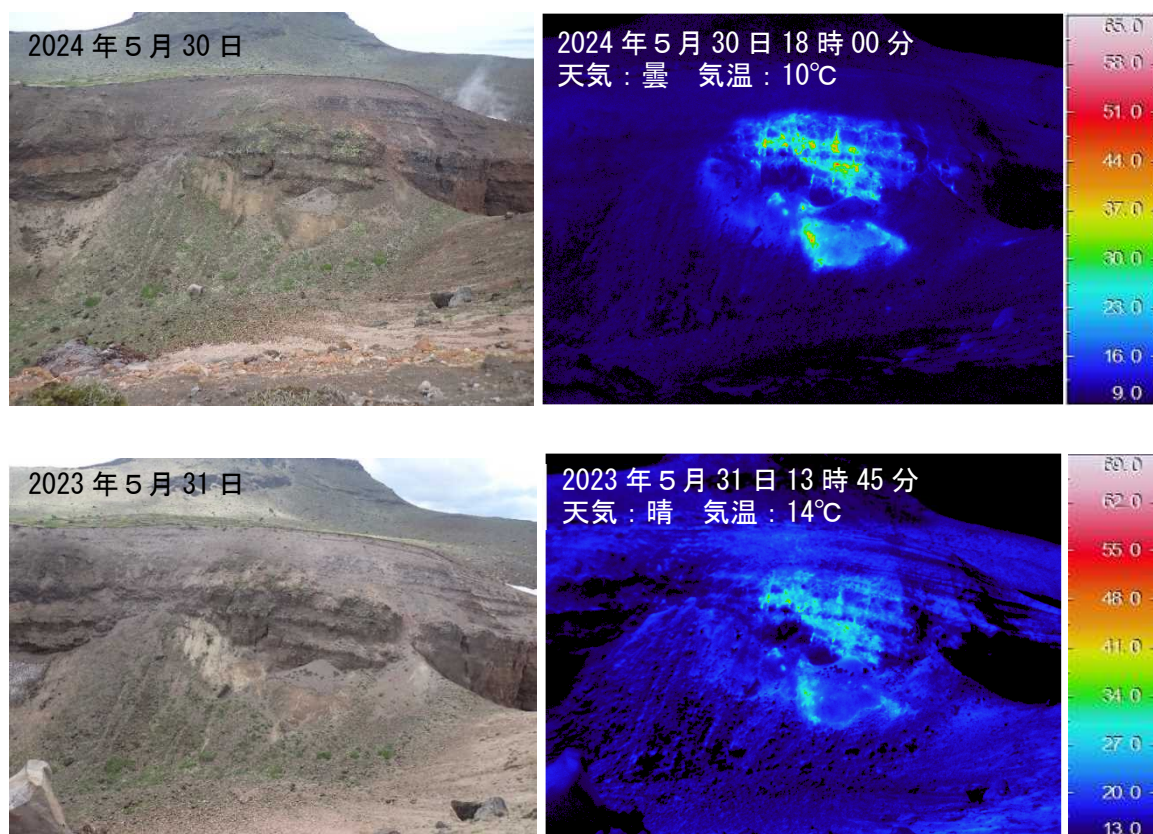


図6 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置による明治火口の地表面温度分布
(図3の②から赤矢印の方向に撮影)

- ・ 前回の観測（2023 年 5 月）と比べ、一部の噴気孔付近でごくわずかな温度上昇が認められましたが、噴気活動の状況や地熱域の広がりには特段の変化はありませんでした。

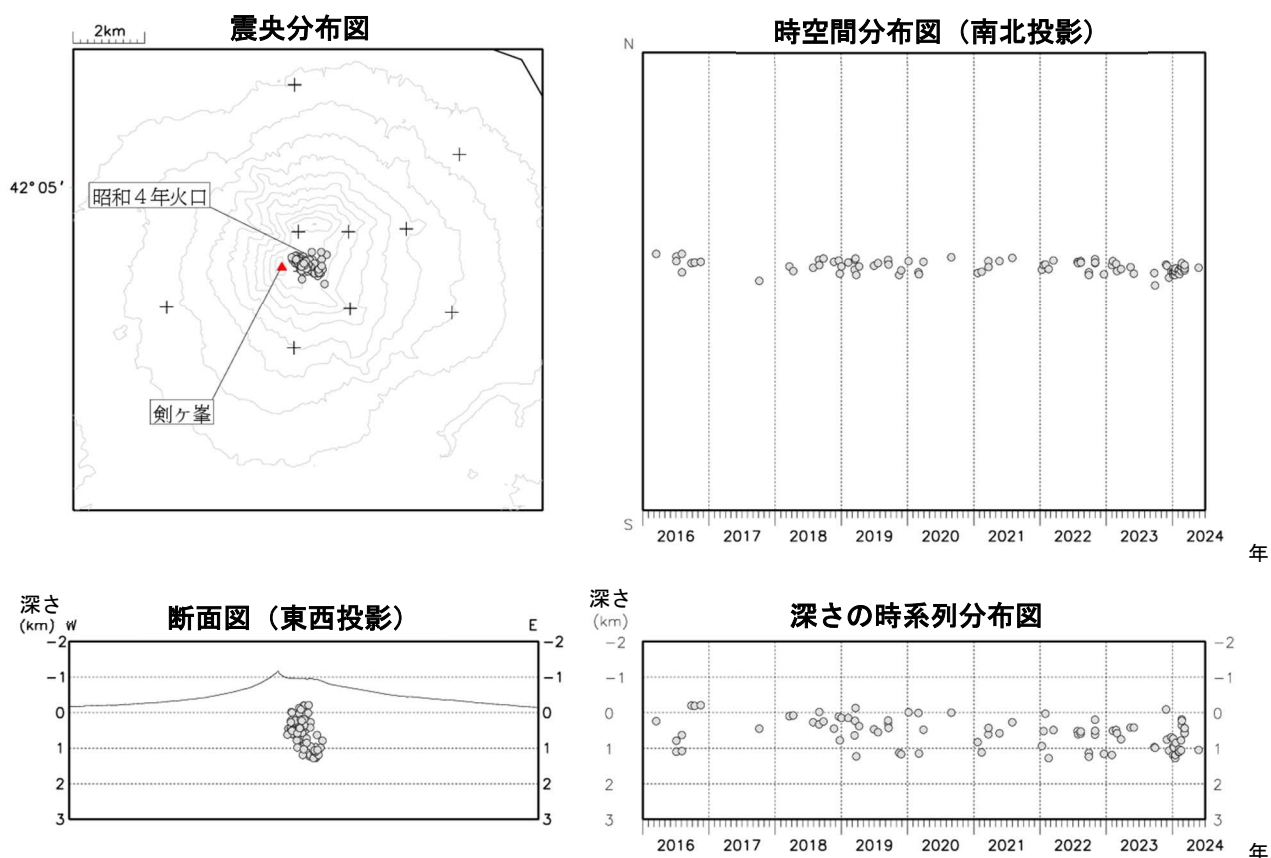


図7 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2016年1月～2024年6月）

- ：2016年1月～2024年5月の震源
- ＋：地震観測点
- ・ 今期間は震源が求まった地震はありませんでした。

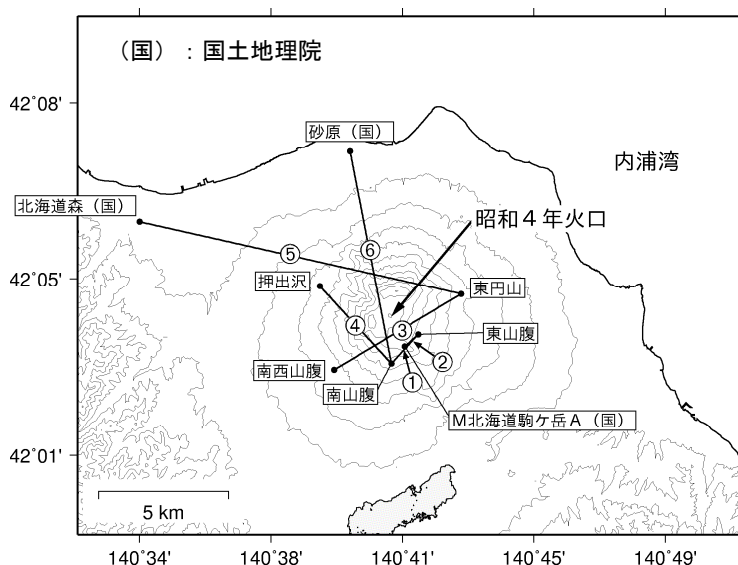
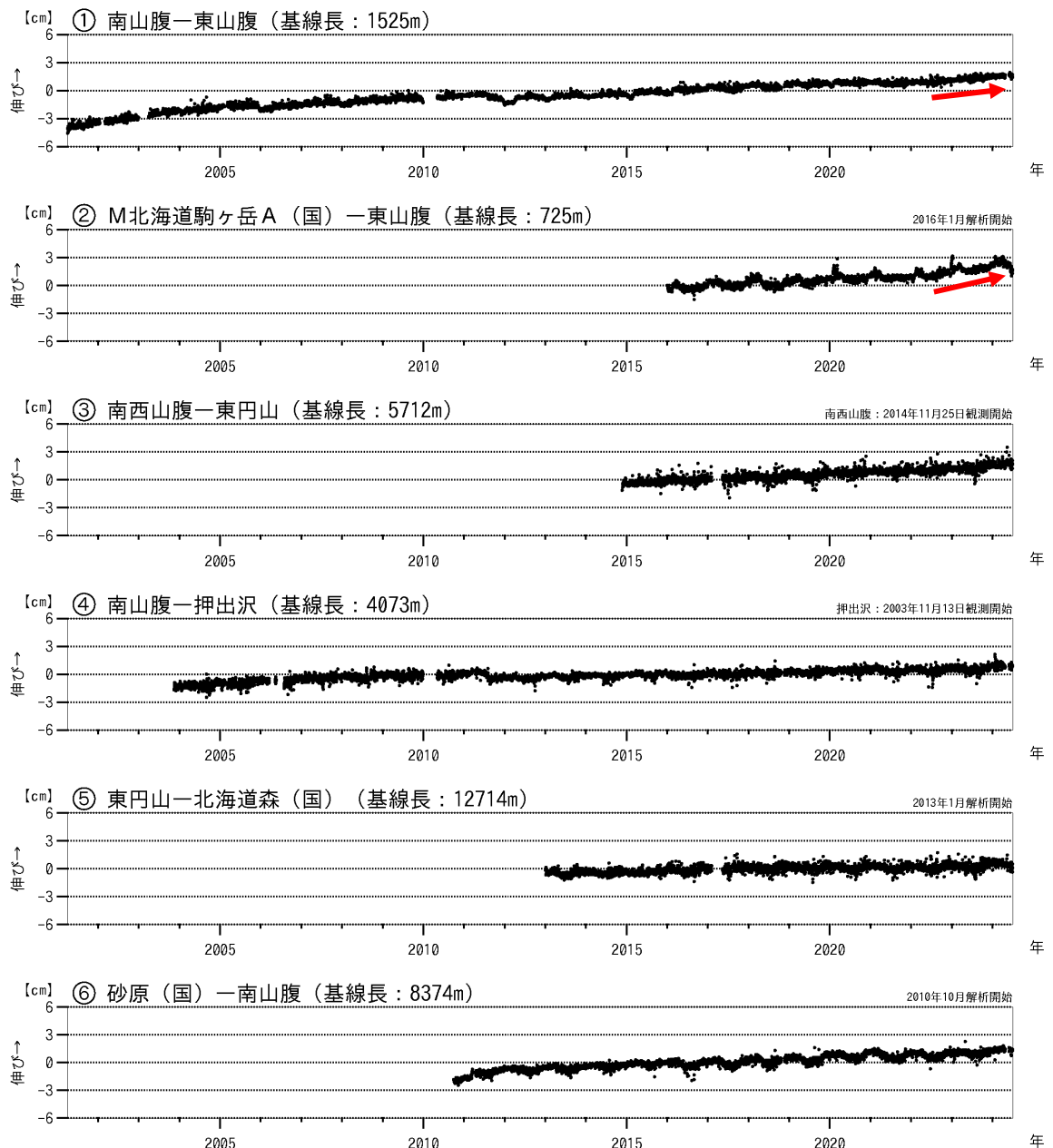


図8 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2024年6月）及び観測点配置図

グラフ①～⑥は観測点配置図の基線①～⑥に対応しています。
グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年頃から山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られていましたが、2024年1月頃からは概ね停滞しています。

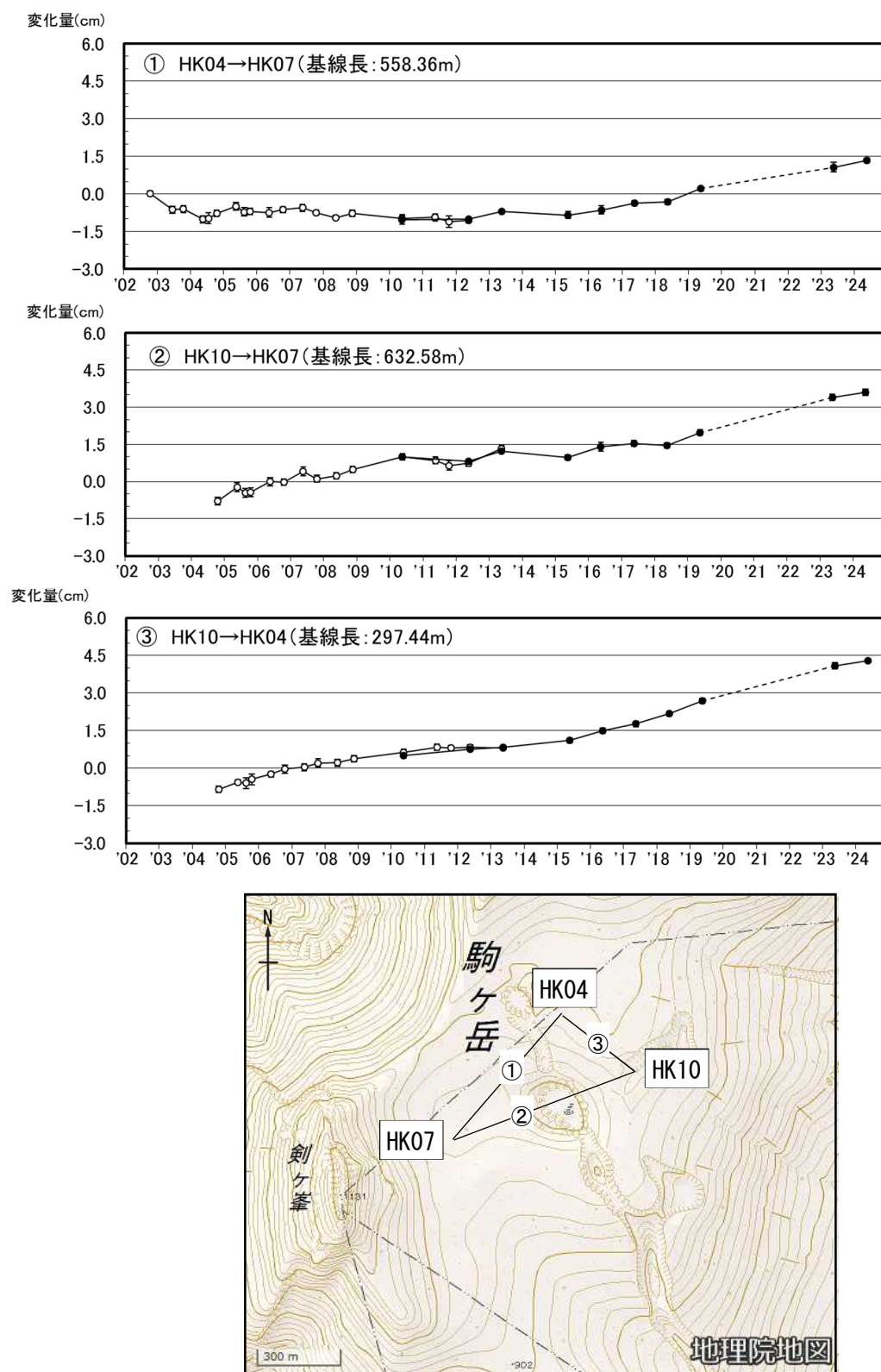


図9 北海道駒ヶ岳 GNSS繰り返し観測による火口付近の基線長変化（2002年4月～2024年5月）及び観測点配置図

GNSS基線①～③は観測点配置図の①～③に対応しています。

2013年に解析方法を変更しています。○は従前の解析方法での解析結果、●は新しい解析手法での解析結果を示します（2010年～2012年のデータを再解析した結果を含む）。

2023年の観測は2019年の観測との間隔が開いていることから、破線で描いています。

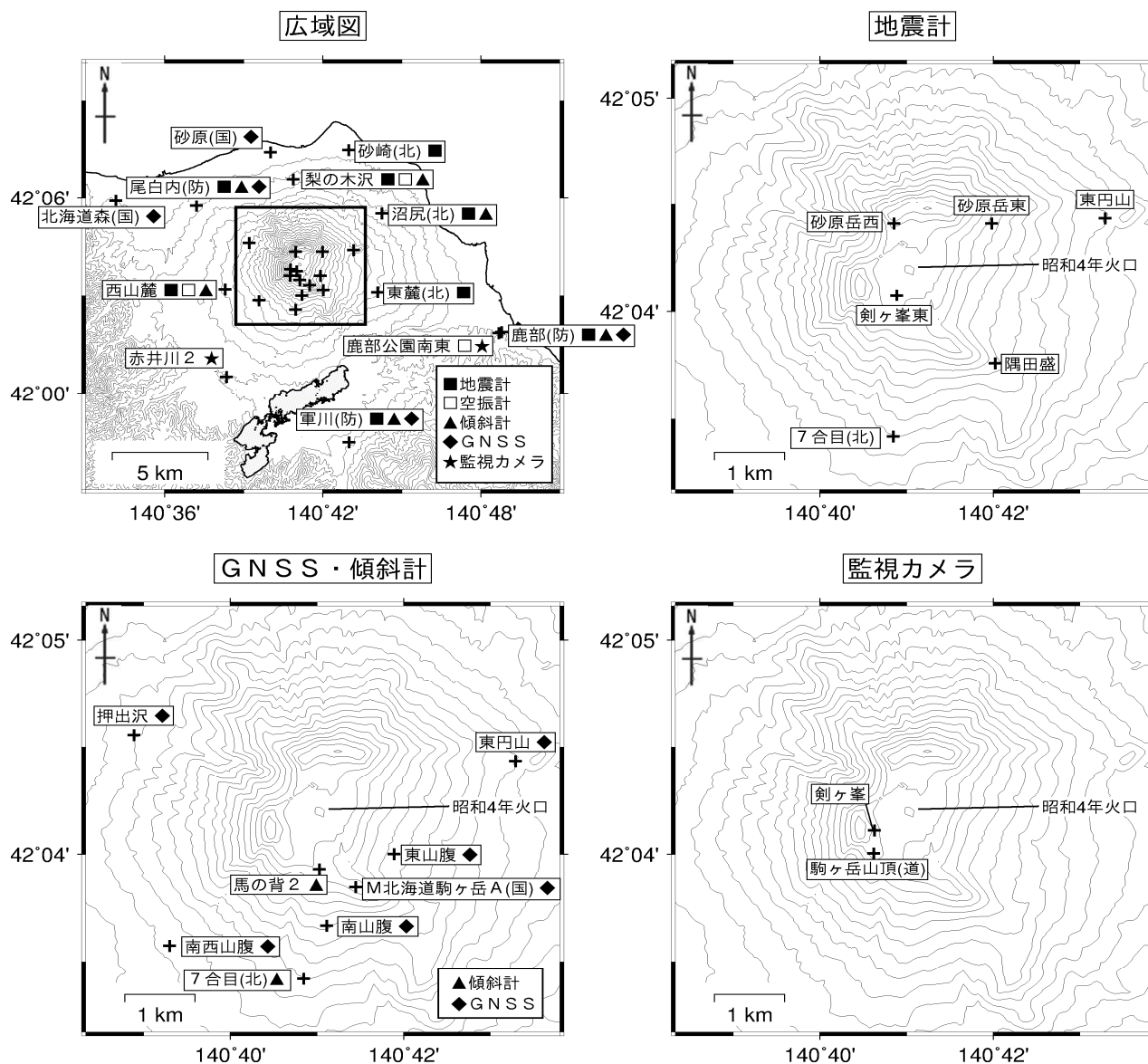


図10 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学 (道)：北海道
(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所